

群馬県障害者芸術文化活動支援センター開設記念

もっと自分らしく。もっと自由に、豊かに。

『アートとカフェは相性がよい!!』

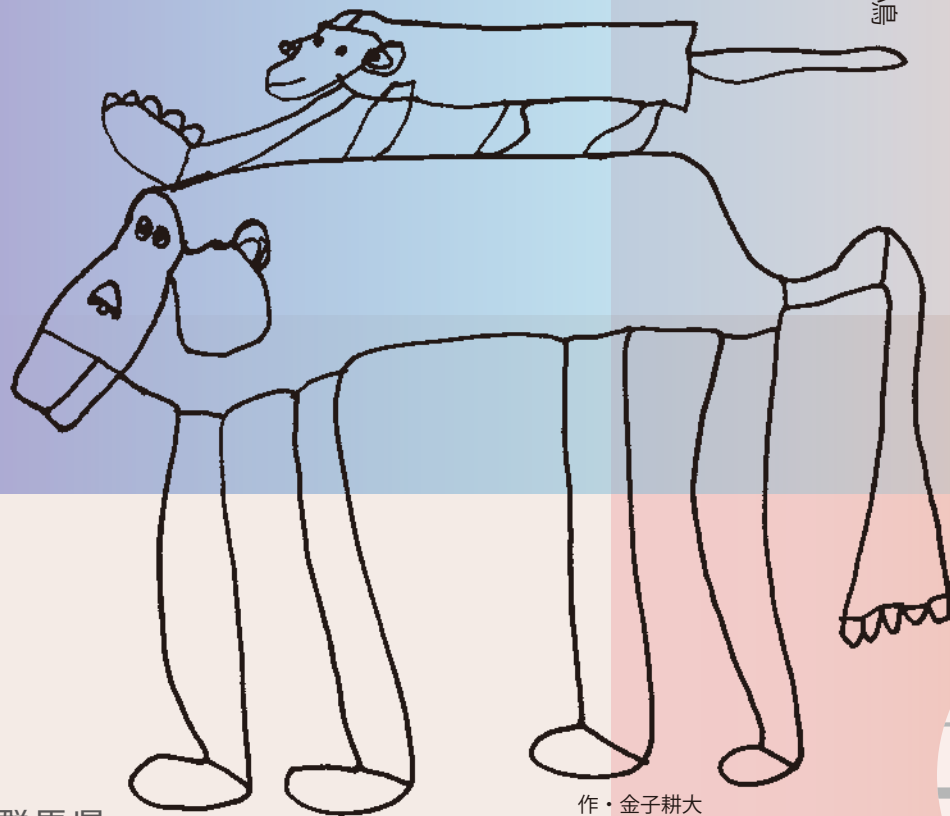
群馬県障害者芸術文化活動支援センター【こ・ふあん】の開設を記念して「アートとカフェ」展を開催します。

自分の力で何かを生み出す。だれかとつながり、広がる。
それは人生のよろこびです。

【こ・ふあん】は、障がいのある人が地域の人びととともに芸術や文化に触れ、活動に携わりさらにいきいきとした日々を送れるようさまざまなかたちでお手伝いします。

この展示は、大和屋さんの協力のもと『こ・ふあんブレンド』コーヒーを楽しみながら私たちのアートを鑑賞できます。

アートとカフェは相性がよい!!



作・金子耕大

群馬県
障害者芸術文化活動
支援センター

こ・ふあん

〒370-0813

群馬県高崎市本町 10-1

イチカワビル 4F 【工房 あかね内】

TEL/FAX 027-387-0533

URL www.gunma-artsupport.com

E-MAIL info@gunma-artsupport.com



主催 群馬県障害者芸術文化活動支援センター・群馬県
共催 工房あかね
協力 株式会社大和屋
協力施設 アジスト前橋・チャイルドホープ上小島

出品作家 林本卓也・島田和奏・金子耕大・武内良樹・安原巧真 他
期間：8月26日(土)～9月10日(日)
会場：群馬県庁 32F (利用時間：平日 8:30～22:00、休日 9:00～22:00)
YAMATOYA COFFEE 32 (open 9:00～19:00)



YAMATOYA COFFEE

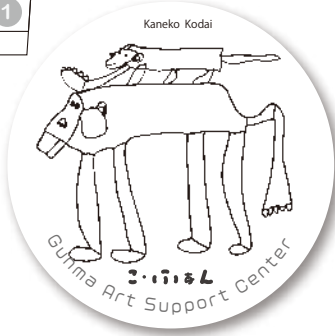
YAMATOYA COFFEE 32 / 群馬県庁 32F

〒371-0026 群馬県前橋市大手町 1-1-1

コーヒーカップのスリーブシール、カード作家の紹介

「アーツアンドカフェ」展 (8/26~9/10) の期間中、YAMATOYA COFFEE 32 でコーヒーを注文いただくと、コーヒーカップスリーブが以下のどれかのデザインになっています。アートとコーヒーを堪能しながら、ゆったりとした一時をお過ごしください。

1



金子耕大 KANEKO-KODAI

「できました！」と元気な声をかけてくれる金子さん。絵本や名画を参考に描いていますが、描かれる作品は独自の表現でもとてもゆたかです。

金子さんの中でリメイク、アレンジされて、すっかりオリジナルな表現になっています。画面の中に現れる生き物たちは、作者の人柄が出てどこか愛らしく惜めません。「これは何を描いたんですか？」と聞くとき必ず彼の言葉で丁寧に説明してくれるのも彼の魅力です。

2



はんだこうすけ HANDA-KOUSUKE

いつも集中して作業しているはんださんの作品は文字を何度も上から重ねて構成されます。重ねすぎて最終的には黒くなってしまいます。文字で自分の中にある何かを表現しているように思えます。作品の中には日常にあった新聞紙の言葉やアートオンで配られる手紙の文字などが入っていることが多いので、よく見てくれているなぁと嬉しくなります。

3



島田和奏 SHIMADA-WAKANA

期待のルーキーの和奏さん。刺繍と絵の具が得意です。いつも元気いっぱい「今日は一緒に絵の具やろうね」と嬉しそうに話かけてきます。水色や明るい色が大好きで「これ以上塗ると汚れてしまいそうだ…」ともっと絵の具をしたい気持ちを抑えながら作品を完成させます。

4



中島 徹 NAKAJIMA-TOORU

身体は大きく活発だけれど作品はとても繊細で、こここまかく点描表現で描いたり、鉛筆画でほかしを入れてみたりといういろいろな技法にチャレンジして、探究心が旺盛です。ほとんど何も参考にせずに、ほぼ頭の中で構成して描きます。時に異国情緒ある作品やほのほのとしたところの田舎の風景、立体キューブが宙に浮かんでいる抽象的な表現など多様なテーマでさまざまな技法を駆使して描きます。

5



浅香ゆき ASAKA-YUKI

油絵具やアクリル絵の具を使って、丸い木や発泡スチロール等の立体物の上に好んで描きます。時にはキャンパスのような平面にも。絵の具をチューブからパレットに出すと、勢いよく描いていきます。絵に集中できるようになると、日常の行動に落ち着きが見られるようになりました。なかなか言葉で自分の気持ちが表わせない彼女の、唯一無二の表現方法なのかもしれません。表現は人に必要不可欠な行為なのかもしれないと、彼女の姿を見て感じます。

6



飯島 康 IIJIMA-YASUSHI

飯島さんは、文字(文章)を絵のように描くのが好きです。常に描き続けています。その多くは「〇月〇日かようびよしさんとつたやにいきます」「〇月〇日にちようびよしさんとぐるりんばすでたかさきえきにいきます」というように、予定を描いています。彼独特の文字は、濁点が×だったり、「お」の点が楕円だったり、点が遠くの方に飛んでいたり、文字(文章)がすっかり絵画になっています。

7



まるこ MARUKO

絵と文字が重なりあって交錯して構成されるまるこさんの作品。主に色鉛筆やクーピーで描かれるため柔らかい色合いになっています。ピンクや明るい愛らしい色を使い、フルーツや数字などを描きます。話しかけるとニコニコ顔してくれるので、みんなとても癒されます。

8



林本卓也 HAYASHIMOTO-TAKUYA

描く対象は仮面ライダーか戦隊ものに決まっています。雑誌を手本にし、コピー用紙に次々描いていきます。絵はどんどんシンプルに進化して行き、丸や一本の線に……。部屋をぐるっと一周し、また新しい紙を取り出して描き出します。赤色がとても好きで、青、黄色でも塗り仕上げます。それを一日何十回と繰り返し、机の上に絵があふれていく。最近は大い布に描いたり、刺繍したり、色々なことに興味を持ち始め、少しずつ試しています。

9



仲村天良 NAKAMURA-TENRYOU

どの作品にも常に「太陽」が顔を出します。中村さんは穏やかで優しく、みんなにとっても慕われています。誰とでも分け隔てなく接し、気軽に話しかけてくれる気さくなお人柄。繊細な筆遣いと色調が、その人となりを表しているように思います。作品展示作業などにも積極的に参加してくれて頼もしい仲間です。